

Amir Tsarfati 氏 2019 年 1 月 22 日公開
(2019 年 1 月 5 日、カリフォルニア州サンタアナにて)
大いなる離別

.....
さて。ランチ直後の時間枠は、ベストではありません。
そこで少し緊張をほぐすために、去年の夏、私がニュージーランドで始めた事をしたいと思います。
皆さんの動画を撮りますので、皆さんは、「シャローム・フローム・カリフォルニア・USA!」と言って、
それから、拍手してください。とにかく元気よく、思いっきりお願いします。
私が合図するまで、止めないでくださいね。

では。一緒に言いますよ?

「シャローム! フローム カリフォルニア USA」いいですね?

1、2、3!

「シャローム! フローム カリフォルニア USA イェーイ!!!!!!」

はい。皆さん、もうお芝居は止めて良いですよ。

以上!

はい。ここからは、悲壯で辛気臭くても構いません。

本当に素晴らしい日ですね。

朝の2つのメッセージだけで、もう、家に帰っても良いくらいです。見事でした。

このカンファレンスで、私は何を伝えるべきかを主に伺い、祈っていた時・・・私は、毎週、時事アップ
デートを、ユーチューブや、フェイスブックライブで行って、その時に起こっている事を、聖書預言の観
点から皆さんにお伝えしているのです。

今夜も、フィリピンのマニラ行きの夜中のフライトに乗る前、夜7時よりライブを行います。

しかしながら、主が私に示されたのは、全く違うものでした。

私が、大嫌いな言葉です。その言葉とは、「大離別」「別離」です。

私は、ものすごく崩壊した家庭に生まれました。私の両親は、私が3歳になる頃に別居していますから、
「離別」というものを、私は良く知っています。それは、家族を破壊します。時によっては、永遠に。

神は、この言葉が私たちの語類の一つになることを全く意図しておられませんでした。

よく考えてみてください。離別とは、ひどい言葉ですよ?大抵の場合、それはネガティブな意味を含んでい
ます。色んな写真を考えてみても、親が子どもたちから離される様子とか、国境や何か、大衆の注目を世界
の問題に集めようとしていますね?離別は、いつも悪い事です。常に、人の気を引きまします。

また、よく考えてみると、初めは、全く違っていました。神は、天と地を創造され、それから、神は人を造
られました。そして、

「人が1人でいるのは良くない。」

と、神は、エバをお造りになって、スペアリブが、プライムリブにました。そしてよく考えてみれば、神は、
人を離すのではなく、繋げようとしておられました。そして人は、すべての動物を支配していました。彼が、
動物たちにあれをしろ、これをしると命令し、彼が、それぞれに名前をつけました。本当に素晴らしかった
のです。

何よりも最高なのは、神ご自身が、人の間に住んでおられたのです。

全てが、完璧な調和と平安の中にありました。

よく考えてみれば、神の臨在の中にいる以上に素晴らしい事はありません。

また、神が訪れてくださる以上に素晴らしいことはありません。

彼が、私達と共に居てくださると知っていること、「インマヌエル」

これが、イエスの本当にすごい点です。神が、私たちと共におられるのですから。

そして興味深いのは、史上初めての離別は、アダムとエバのエデンの園からの別離でした。

神は彼ら2人を離しませんでしたでしたが、彼らを神の臨在から離されました。全てが完璧である場所、全てのものが、完璧に造られていた場所から。エデンの園では、神殿はありませんでした。彼らは、神を礼拝するために、神殿に物を持って行く必要はなかったのです。神が、そこにおられたから。彼は、そこにおられたのです。神殿は、必要ありませんでした。

「離別」

初めて人が神から離されたのは、初めの罪の後です。創世記 3:24

24 こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。

(創世記 3:24)

つい先日、私は自分の教会で、イザヤ書9章からメッセージをしました。

「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。」

その時、私は、クリスマスについて話をしたのですが、私たちのために生まれた“みどりご”を祝うことがどれほどユダヤ的か。

クリスマスの異教のシンボルではなく、私たちは、本当の木について話すことが出来るのです。

いのちの木、イエスです。

あなたは、イエスから食べるのです。

8 主のすばらしさを味わい、これを見つめよ。

(詩篇 34:8a)

彼は、あなたにいのちをくださるのです。

しかし、罪のために、もういのちの木には近づけません。

完璧な世界から、罪人が取り除かれたのです。面白いと思いませんか？

一番初め、取り除かれたのは罪人でした。

世界は完璧でした。問題は罪人で、完璧な世界から、罪人が取り除かれたのです。

しかしもちろん、それは悪化します。

4章、5章を見てください。4章ですでに、カインとアベルの話が見られます。

カインが、どのように、彼の家族と神から離されたか。聖書には、創世記 4:16 にこうあります。

16 それで、カインは、主の前から去って、エデンの東、ノデの地に住みついた。

(創世記 4:16)

主の前から「去り」ました。

イザヤ書 59:1-2 を見て、私達は驚くべきではありません。

1 見よ。主の御手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて、聞こえないのではない。

2 あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。

(イザヤ書 59:1-2)

罪が、離別を引き起こしたのです。一番初め、世界が完璧だった時、取り除かれたのは、罪人でした。しかしやがて、それが広がって行きます。そして創世記6章以降、取り除かれたのは、正しい人の方で、他の人たちは、救いようがないほどに邪悪だったから。

このように、あの完璧な世界が、非常に邪悪になりました。

創世記 6:5-8 には、こうあります。

5 主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。

尽きることがなかったのです。どんどん、どんどん悪化していました。

6 それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。

7 そして主は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」

8 しかし、ノアは、主の心にながっていた。

(創世記 6:5-8)

神は、継続することの出来る人を、一人、見つけました。

そして今回、完璧な世界から隔離されたのは、罪人ではありません。

正しい人が、邪悪な世界から隔離されたのです。

そして創世記 6 章から、皆さんは、この新しい考え方に慣れなければなりません。

神が命じられる「離別」とは、正しい者の、邪悪な世界からの別離です。

次に、アブラハムの離別があります。彼は、故郷からも家族からも離されました。創世記 12 章に、こうあります。その後、

1 主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。

(創世記 12:1)

神が、アブラハムを隔離されました。

もしあなたが、あなたを通して、あなたと共に、あなたによって、わたしが働くことを望むなら、

あなたは、あなたの生まれた場所を離れなければならない。あなたの故郷、あなたの家族、あなたの家、時には、あなたの故国から。

2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、

(創世記 12:2a)

神には、大きな約束があるのです。離別が恐ろしいことになるなんて考えないでください。

素晴らしい事です。しかし、痛みが伴います。離別は、痛いものです。

しかし、大きな約束があるのです。

2 …あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。

3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。

地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

(創世記 12:2-3)

ご自分の事で考えてみてください。あなたが福音を伝えると、地上の全てが、祝福を受けられるのです。祝福されたくない人などいません。

そしてまた別の離別は、モーセのエジプトからの隔離です。

モーセのエジプトからの隔離は、出エジプト記 2 章 15 節の後半。

15 しかし、モーセはパロのところからのがれ、ミデヤンの地に住んだ。彼は井戸のかたわらにすわっていた。

(出エジプト記 2:15b)

神は、彼を荒野に保護し、その後、彼が行^{おこな}う事に備えさせるために、彼をエジプトから取り除かなければなりませんでした。

そして時が来ると、モーセは彼の使命を全うし、イスラエルの民をエジプトから救い出します。この時、神は、イスラエル国家全部を、エジプトから隔離されました。出エジプト記 12:31

- 31 パロはその夜、モーセとアロンを呼び寄せて言った。
 「おまえたちもイスラエル人も立ち上がって、私の民の中から出て行け。
 おまえたちが言うとおりに、行って、主に仕えよ。」
- 32 おまえたちの言うとおりに、羊の群れも牛の群れも連れて出て行け。
 そして私のためにも祝福を祈れ。」

(出エジプト記 12:31-32)

そしてイスラエルの民、元奴隷の集団は、今、歩きながら、これは一体どうなっているのかとっていました。

私たちの好きな食べ物はどこだ？私たちが知っている空気はどこだ？

私たちが周辺で見ていた、外国の神々はどこだ？ここは、ものすごい砂漠じゃないか！

そこへ、神は、彼らに言おうとしていたのです。

「あなたがたには、そんな神々は必要ない。」

「わたしがここにいる。」

「わたしが全て面倒見る。」

皆さんも、エジプトを出ることは出来ませんが、しかし皆さんは、エジプトをあなたの中から出さなければなりません。

そこで神は、彼らの中からエジプトを取り除くように、彼らに言われました。

出エジプト記 33 章、

金の子牛の恐ろしい光景の後、モーセはそこにいて、言葉も出ませんでした。

- 14 すると主は仰せられた。「わたし自身がいっしょに行って、あなたを休ませよう。」
- 15 それでモーセは申し上げた。「もし、あなたご自身がいっしょにおいでにならないなら、私たちをここから上らせないでください。」
- 16 私とあなたの民とが、あなたのお心にかなっていることは、いったい何によって知られるのでしょうか。それは、あなたが私たちといっしょにおいでになって、私とあなたの民が、地上のすべての民と“区別”されることによるのではないのでしょうか。」

(出エジプト記 33:14-16)

ここのモーセは、かなり厚かましいですよ？

彼は、文字どおり、神に叫んで、神に怒っているのです。

ところで、神は、こういうのが大好きですよ？これは、正しい人の神に対する嘆願たんがんですから。

- 17 主はモーセに仰せられた。「あなたの言ったそのことも、わたしはしよう。あなたはわたしの心にかない、あなたを名ざして選び出したのだから。」

(出エジプト記 33:17)

そしてこの1章前に、もう一つの離別があります。

出エジプト記 32 章

- 25 モーセは、民が乱れており、アロンが彼らをほうっておいたので、敵の物笑いとなっているのを見た。
- 26 そこでモーセは宿営の入口に立って「だれでも、主につく者は、私のところに。」と言った。
 するとレビ族がみな、彼のところに集まった。

(出エジプト記 32:25-26)

イスラエルの中でさえ、離別がありました。

「これからは、私たちは主に仕える」

離別に、国境も限界もありません。人種や国籍など、何も関係ありません。

あなたは、主につくのか、つかないのか、ただそれだけです。

そして、イエスが来られました。

イエスが世に来られ、全てが変わりました。

なぜかという、あの瞬間、多くの人たちが、多くの彼らの偽りに別れを告げなければなりませんでしたから。

「これが伝統！ 伝統だ！」

そんなものには、別れを告げなさい！

ユダヤ人たちに、彼は言われたのです。

「あなたがたは、キリストを信じる者として、伝統的なユダヤ教から、自分たちを切り離さなければならぬ。」

ガラテヤ人への手紙 2:11-21

- 11 ところが、ケパがアンテオケに来たとき、彼に非難すべきことがあったので、私は面と向かって抗議しました。
- 12 なぜなら、彼は、ある人々がヤコブのところから来る前は異邦人といっしょに食事をしていたのに、その人々が来ると、割礼派の人々を恐れて、だんだんと異邦人から身を引き、離れて行ったからです。
- 13 そして、ほかのユダヤ人たちも、彼といっしょに本心を偽った行動をとり、バルナバまでもその偽りの行動に引き込まれてしまいました。
- 14 しかし、彼らが福音の真理についてまっすぐに歩んでいないのを見て…

(ガラテヤ人への手紙 2:11-14a)

これは、ユダヤ人の男が、別のユダヤ人の男に言っているのです。

ここで彼は、何も良いことを言っていない。

そして彼は言います。

- 14 「あなたは、自分がユダヤ人でありながらユダヤ人のようには生活せず、異邦人のように生活しているのに、どうして異邦人に対して、ユダヤ人の生活を強いるのですか。
- 15 私たちは、生まれながらのユダヤ人であって、異邦人のような罪人ではありません。
- 16 しかし、人は律法の^{おこな}行いによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行いによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行いによって義と認められる者は、ひとりもないからです。

(ガラテヤ人への手紙 2:14b-16)

これをパウロは、ペテロに言わなければならなかったのです。

「ペテロ、恥を知れ！ 私達は、ユダヤ人だ。しかし我々は、もう、律法によって義と認められると考える集団の一員ではないのだ！」

しかしそれは、ユダヤ人だけではありません。次は、皆さんについてお話ししましょう。

先ほど言いましたが、イエスが来られ、全ての規則が変わりました。

異邦人の、異国の世界からの離別も同様です。

よく考えてみてください。使徒の働き 15 章で、彼らはエルサレムに集まって、決断しなければならなかったのです。

「この人たちのことを、どうするべきか？」

「彼らに、割礼を受けさせるかどうか？」

「これは、大変だ。」

そこでヤコブは、彼らに手紙を書く事にしました。

聖霊に導かれて、彼は書いています。

- 22 そこで使徒たちと長老たち、また、全教会もともに、彼らの中から人を選んで、パウロやバルナバと
いっしょにアンティオケに送ることを決議した。選ばれたのは、兄弟たちの中で指導者たちで、バル
サバと呼ばれるユダおよびシラスであった。
- 23 彼らはこの人たちに託して、こう書き送った。
「兄弟である使徒および長老たちは、アンティオケ、シリア、キリキアにいる異邦人の兄弟たちに、
あいさつをいたします。
- 24 私たちの中のある者たちが、私たちからは何も指示を受けていないのに、(割礼を受けるとか、律法を
守れとか)いろいろなことを言って、あなたがたの心を乱したことを聞きました。
- 25 そこで、私たちは人々を選び、私たちの愛するバルナバおよびパウロといっしょに、あなたがたのと
ころへ送ることに衆議一決しました。
- 26 このバルナバとパウロは、私たちの主イエス・キリストの御名のために、いのちを投げ出した人たち
です。
- 27 こういうわけで、私たちはユダとシラスを送りました。彼らは口頭で同じ趣旨のことを伝えるはずで
す。
- 28 聖霊と私たちは、次のぜひ必要な事のほかは、あなたがたにその上、どんな重荷を負わせないことを
決めました。
- 29 すなわち、偶像に供えた物と、血と、絞め殺した物と、不品行とを避けることです。これらのことを
注意深く避けていれば、それで結構です。以上。」

(使徒の働き 15:22-29)

血と、みだらな行いと、偶像に献げられたものとを避ける。

よく考えてみると、それぞれ一つ一つが説教のトピックです。ともかく、そういう事です。

「同時に2つの結婚式でダンスは出来ない。」と言われます。

選ばなければなりません。

だから私は、フィリピンに行く度に、あちらのスープの一つに悩むのです。

「ディヌグアン」(書記注:豚の血のシチュー)皆さん、恐らく私が何のことを言っているか、お分かりで
しょう。

それから使徒の働き 17 章で、パウロは、アテネのただ中で言っています。

- 24 この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮
などにはお住みになりません。
- 25 また、何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる必要はありません。
神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになった方だからです。
- 26 神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれに決められた
時代と、その住まいの境界とお定めになりました。

(使徒の働き 17:24-26)

神が、住まいの境界をお定めになります。

国境は、御心に適^{かな}っています。

それから、彼は言います。

ちょっと待ってください。それから…

- 27 これは、神を求めさせるためであって、もし探り求めることでもあるなら、神を見いだすこともある
のです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。
- 28 私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。あなたがたのある詩人たちも、『私たち
もまたその子孫である。』と言ったとおりです。
- 29 そのように私たちは神の子孫ですから、神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像と同じ
ものと考えてはいけません。

実に・・・ここからが要点です。

「実に」と彼は言います。

30 神は、そのような無知の時代を見過ごしておられました。

が、今は、

彼は言います。「決まりが変わったのだ！」

が、今は、

「が、今は」と言ってください。

すべての人に

「すべての人に」と言ってください。

どこでも

「悔い改めを命じておられます。」

(使徒の働き 17:27-30)

全ての人に、どこでも、悔い改めを命じておられる。

そうです。もう、言い訳は出来ません。

人の手で作られた寺や、人が作った偶像などに行ってはいけない。もう、終わりだ。時は来たのだ。

メシアが来た。

あなた方には、もう言い訳が出来ない。

31 なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により、義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの実証をすべての人にお与えになったのです。」

(使徒の働き 17:31)

興味深い事に、神は、時に、私たちに自分の家族から離れなさいと言われます。

私たちの友達から、私たちの世界から、私たちの家から、時には、私たちの国から離れるように。

しかし同時に、信じられないような、美しい再会があるのです。

もしくは、神の民の間での結びつき。“再”会でなく。

ユダヤ人と異邦人の間を隔てていた壁は、壊されました。

すごいです。エペソ 2:14

14 キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、

(エペソ 2:14)

このように、彼は、あなたを邪悪な世から隔離されますが、

それから彼は、この国の正しい人、あの国の正しい人、この場所の正しい人たちを連れて来て、そして彼が、皆を一つにされます。大きな隔離と同時に彼は、隔ての壁を打ち壊します。

唯一、キリストによってのみ、国境がなくなります。

唯一、キリストによってのみ、国家主義がなくなります。

唯一、キリストによってのみ、もはや宗教がなくなります。

唯一、キリスト…キリストから離れると、宗教があります。

ガラテヤ人への手紙 3章

26 あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。

27 バプテスマを受けて、キリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。

28 ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。

29 もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。

(ガラテヤ人への手紙 3:26-29)

わお。

ここまで、私達は離別について話して来ました。

しかしそれは、ここ、この地上です。

私達は全員が隔離されました。家族からかも知れません。私たちの昔の宗派からかも知れませんが、もしかしたら、もう友だちでいることの意味がなくなった友人かも知れません。

もしかしたら…私には分かりませんが、
宗教？

しかし、今は、すぐそこに待ち受けているのは、大いなる離別です。

いいですか？

教会の、この世からの大いなる離別。

私が言っているのは、あなたが、外の世から離れることではありません。

私が言っているのは、肉体的離別、

私達全員の、この世からの離別です。つまり私が言っているのは、教会の携挙です。

皆さん、いいですか？

私達は、ここにいる限り、人はまだ、神に従い、イエスを受け入れることを選べるのです。

彼らにとって、あちらに行くチャンスはまだあります。

しかし、私たちが、肉体的に隔離された瞬間、それで終わりです。

彼らのチャンスは、ほぼ無くなります。

人は理解しませんが、神は、時を定めておられます。

「聖書預言が加速されている！」という人が、たまにいますが、私たちは、何一つ加速しません。

神は、すでに時を定めておられるのです。ちなみに、神は、イエスが生まれる時も定めておられましたよ？
ただの偶然ではありません。

そして、「時が満ちた」と彼が言われると、その時に、マリヤが出産しました。

そして、時が来れば、私たちは、ここを出て行きます。

それから、異邦人の時が終われば、私たちは全員戻って来て、そしてイスラエルの全家が救われます。神が定めておられる時があるのです。しかも神は、私たちに相談はされません。

彼が、私たちに言うておられることといえば、「備えなさい！」

「わたしはあなたがたに、その時代、その季節のしるしを与える。

だが、わたしはただ座って

『おお！プーチンがあれをしたのか!?わたしも急がないと！』なんてことは言わない。」

前回、誰かさんが神を急かして預言を成就させようとしたね？

それで、イシュマエルが世に来て、私たちは未だに問題を抱えています。

よく考えてみてください。

私達は、ただ耳を傾け、信じさえすれば良いのです。

もしもし？神を助けようとしなくてください！彼は大丈夫です。

しかし、時が来て、神が、私たちを連れて行く決断をされたなら…神は、なさいますよ？

それまでです。

この離別は、ただ気持ちの問題でなく、ただ霊的なものでもなく、これは、肉体的な離別です。

肉体的な離別。私達は、この世から取り除かれます。

そして主の元に行きます。その時、人々は、私たちが上に上がって行くのを見はしません。

メリーポピンズみたいに？ありません！

私たちは、どのように変えられて、ここを出て行くのか？一瞬のうちに、です。第一コリント 15 章

51 **聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠ってしまうのではなく変えられるのです。**

52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは…

「私たち」と言ってください。

私たちは、変えられるのです。

(第一コリント 15:51-52)

朽ちるものは・・・

もし、あなたが「“朽ちるもの”とは何なんだ？」と思っているなら、あなた、ですよ。

2本の指で、ご自分をつねってみてください。あなたは、死につつあるのです！

信じないなら、20年前の写真を出して見てください。あなたは、死につつあります！この、

53 朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです。

(第一コリント 15:53)

私たちが変えられる瞬間、引力は、もはや私たちをここに縛りません。私たちは、ビュンといなくなるのです。第一テサロニケ 4:13-18

13 眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに、知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが、他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。

14 私たちは、イエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあつて眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずですよ。

15 私たちは、主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。

彼は、私達に言っているのです。

「これは、私の意見ではない。私は、神の御言葉のとおりに言っているのだ！」

「神は私に、あなたがたにこれを伝えよと言われたのだ。」

16 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、

17 次に、生き残っている私たちが、

「私たち」と言ってください。

生き残っている私たちが、

これは、素晴らしい事ですよ？

…たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。…

(第一テサロニケ 4:13-17)

「なんか、現実離れした話だな？」

あまりにも多くのクリスチャンが、こんな風に、

「ん～～～～」

だから私は

モーセ？

あれはどうなの？

ヨルダン川は、押し返し？あれはどうなの？

どうして、携拳が問題なのですか？

紅海を歩こうとしたことはありますか？

しかも、それだけではありません。

18 こういうわけですから、このことばをもって、互いに慰め合いなさい。

(第一テサロニケ 4:18)

言い換えれば、皆さん！

唯一、私たちが慰められることといえば、この約束ですよ。

あなたは、ここに留まらない！

あなたは、「教会の大いなる離別」で、神の裁きから隔離されるのです。

皆さん、神の御言葉は、すでに世界中で宣べ伝えられています。

イスラエルは、すでに故国に戻りました。

エルサレムは、再び、世界の注目の的ですよ。

世は、必死でグローバル・システム化を推し進めて、反キリストが支配するための舞台を整えています。私たちは、これら全てを見ました。

初めのお2人も、皆さんが理解できるように、全てを見事にまとめてくれました。

間違いなく、神は言っておられます。「これらが、しるしだ」

私たちがキリストの愛から引き離すものは、何もありません。

私たちは、世から引き離されますが、キリストの愛から私たちが引き離されることは、決してありません。

彼は、私たちをととも愛していることを証明するために、御座を降りるのです。

聖書には、主ご自身が下って来られる、とあります。

彼は、大天使を遣わすことも出来たのです。同じことでしょうか。

「ミカエル、行って、彼らを連れて来なさい。」と。

いいえ！

彼は、再び御座を降りて来られるのです。私たちを、彼の元に迎えるために。

彼のいる所に、私達をもおらせるためです。

7 不法の秘密はすでに働いています。

(第二テサロニケ 2:7a)

確かに、世界中で。

世界中で何が起きているか、皆さんも見ましたね。

でもね、彼らは神の御言葉に飢え渴いています。彼らはただ、知らないのです。

その空洞は、埋められなければなりません。欺きが、いたる所に見られます。

彼らは、善を悪と呼び、悪を善と呼んで、闇を光と呼び、光を闇と呼びます。

私たちは、それについて聞いたばかりです。皆さんも、ご自分で納得がいくでしょう。これだ、と。

それがあなたの生き方です。

私たちは、この世にいますが、この世の者ではありません。

私たちは、肉体的にこの世から隔離されるまでは、自分で自分を道徳的、靈的に、この世から隔離しなければなりません。

聖書は言います。

2 この世と調子を合わせてはいけません。

(ローマ書 12:2a)

1 ですから、兄弟たち。私は、神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に受け喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。

2 この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころとは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。

(ローマ 12:1-2 新改訳 2017)

よく考えてみると、これは、すごいことですよ。

素晴らしい、究極の肉体的な離別が、近づいているのです。

ただ…神は、教会を連れて行かれます。ここに疑いの余地はありません。

ただ問題は、それが起こった時、あなたは、どこにいるのか？どちらかを選ばなければなりません。

皆さん、理解しておいてください。聖書預言には、平行する2つの線があります。

1つは、世の出来事。

もう1つは、私の人生です。

そして、この時の私の選択によって、世の出来事が起こった時の、私の居場所が決まるのです。

ローマ書 13 章。

- 11 あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように^{おこな}に行いなさい。あなたがたが、眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は、救いが私たちにもっと近づいているからです。
- 12 夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。
- 13 遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。
- 14 主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。

(ローマ書 13:11-14)

ローマ書 8 章

- 22 私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。
- 23 そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にしてください。すなわち、私たちの体の贖われることを待ち望んでいます。
- 24 私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望むでしょう。
- 25 もしまだ見ていないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐をもって熱心に待ちます。

(ローマ書 8:22-25)

今日、私から、皆さん全員への質問は、あなたは、大いなる離別の準備が出来ていますか？

準備は良いですか？それとも、この世にまだやり残した事がありますか？

あなたの希望は…

一つ、皆さんにお伝えすると、一度、私がシンガポールに行った時、ある牧師が、私を迎えに来てくれたのですが、ホテルに向かう車の中で、彼は、自分はとても成功していると言っていました。

「私は、素晴らしい家を建てたんですよ。」

と。それから、彼は言いました。

「その家が、本当に素晴らしくてね。だから、イエスがすぐに戻って来てくれなくてもいいのです。」

皆さんの宝は、どこにありますか？

ここですか？私たちは、この世からは離れるかも知れませんが、しかし私たちには、素晴らしい集会があるのです。

皆さん、一つお伝えしますと、

イザヤが、主の御前に連れて行かれた時、彼は、主の素晴らしさに驚愕して言いました。

「私は、くちびるの汚れた者です。私は、罪深い人間です。」

さて、私たちは、恵みによって救われています。ですから私たちは、大胆に最も聖なる場所に入ることが出来るのです。

彼が、私たちを、あちらまで連れて行ってくださいます。そして私たちは、彼の御前に立ちます。

それから、書が開かれるのですよ？その書には、私たちが何をどのように行ったか、私たちが何をどのように言ったかが書かれています。

私たちには、今日、大いなる離別の前に、まだ、ものごとを修復する時間があります。

ご自分の“ともしび”の油があるか、確認してください。そうでなければ、

あなたは、取り去られません。

なぜなら、あなたが油を用意した時には、彼は、すでに去っていますから。あなたに用意が出来ていれば、あなたは、それを知っているはずです。ところでもし、あなたが、用意が出来ているかどうか分からないなら、私はあなたに、大いなる離別に慰められなさいとは言えません。

恐ろしいことになりますよ。私は、携挙が起こった後の教会で、残された人たちが泣いている動画を観ましたが、自分が取り残されたと気づくなんて、本当に恐ろしいことです。

もし、あなたに用意が出来ていないなら、準備をしなければなりません。

ところで、用意が出来ている人というのは、自分は準備が出来ていることを、分かっています。

13 …これらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。

(第一ヨハネ 5:13)

用意が出来ているなら、自分で分かっているはずですよ。

したがって、あなたは、大いに慰められるでしょう。

皆さんの全員を、励ましたいと思います。世界中、どこにいても、大いなる離別が起こります。

もし、あなたが信者でないなら、事態は、とてもひどいものになります。

もし、あなたが信者なら、最も信じられないような事が起こります。

私達は、この卑しい^{いや}体を捨てるのです。

そうです！

それから、あちらの食べ物は素晴らしく、私たちには、もはや、時間も時計もありません。時間に遅れることは、決してないのです。

それと、私はいつも言うのですが、皆さんは、あちらで誰を見て、また、あちらで誰を見ないかで、驚くことになりますよ。

お父様。ありがとうございます。

大いなる離別が、今、この瞬間にも起ころうとしています。

お父様。離別とは、悪い言葉であることを 私たちは知っています。

あなたは、それが私たちの語類にあることすら、決して意図されませんでした。

あなたは、あなたの民の間に住まうことを望んでおられました。

しかし、私達をあなたから離れたのは罪です。

そしてちょうど、ひとりの人によって罪が世界に入ったように、あなたは、イエスを十字架で死ぬために送ってくださり、地上の人間一人一人に、彼を受け入れ、私たちの罪の代価が支払われた、と信じることによって、神の子どもと呼ばれる機会が与えられました。

お父様。感謝します。

創世記 6 章以降、離別は、あなたが、正しい人に求めるものとなりました。

お父様。どうか、この世で私たちに残されている、わずかな時間で、私達を備えてください。

大いなる離別に向けて、私達を備えてください。

その時まで、私達を城壁の見張り人としてお使いください。